

自分で守る
みんなで守る
防災教育

令和2年度

1日防災学校 実践事例

～実践的な防災教育の推進～

- 本道の児童生徒に、災害時には**自らの命を守ることができる力**を身に付けさせるため、実践的な防災教育の推進が求められています。
- 道教委では、道、市町村、防災関係機関等と連携し、**実践的な体験活動を取り入れた「1日防災学校」**の取組を展開しています（令和2年度 148市町村実施）。
- 各学校では、地域と連携し「自分で守る みんなで守る」知恵と行動力を学ぶ**「1日防災学校」を始めましょう。**



津波実験装置で津波のメカニズムを学ぶ子どもたち

Contents

□ 学校での実践事例

- | | | |
|---------------|------------|----------------------|
| Case 1 | 幼稚園 | 防災教育用カードゲーム「ぼうさいダック」 |
| Case 2 | 小学校（1・2年生） | 防災かるた |
| Case 3 | 小学校（3・4年生） | 避難所設営体験 |
| Case 4 | 小学校（5・6年生） | 非常食調理 |
| Case 5 | 小学校（その他） | 煙体験、津波実験 |
| Case 6 | 中学校 | 避難所運営ゲーム |
| Case 7 | 中学校 | 防災クイズ |
| Case 8 | 中学校 | シェイクアウト訓練、救急救命訓練 |

児童生徒や
教職員の声、
関係機関からの助言も
掲載しています。

□ 関係機関との連携事例

- ・ 防災〇×クイズ (市町村防災担当職員、地域防災マスター)
- ・ 救護活動、避難所設営体験 (市町村防災担当職員、社会福祉協議会)
- ・ 地図情報を活用した出前講座 (国土地理院北海道地方測量部)
- ・ 防災機関の災害対応 (警察、消防、自衛隊)
- ・ 非常食など備蓄品等の提供 (市町村防災担当部局)
- ・ 防災教育資機材一覧 (市町村防災担当部局、道危機対策課)
- ・ 学んDE防災 (北海道教育委員会)

自分で守る
みんなで守る
防災教育

学校での実践事例

1

本資料の活用にあたって

実践事例は、次の項目で整理し、まとめています。

Case 2 防災かるた（1・2年生：国語、特別活動）



防災かるたをならべた様子



かるた取りをしている様子

- **ねらい**
 - ・地震や津波、火山、気象など、北海道の自然災害や、必要な防災知識を確認させる。
 - ・確認した知識をもとに、「なぜその行動が必要か」を考えさせる。

- **内容**
 - ・誰でも楽しめる「かるた遊び」を通じて、北海道ならではの自然災害のリスクや防災に関する知識を身に付けます。

- **関係機関の協力**
 - 市町村防災担当部局や振興局職員による可会進行、解説

取組名、学年、教科を記載しています。

児童生徒に理解させるポイントを、記載しています。

具体的な取組内容を記載しています。

協力してくれた防災関係機関を記載しています。

2

自分で守る
みんなで守る
防災教育

幼稚園

Case 1 防災教育用カードゲーム「ぼうさいダック」

3

Case1 防災教育用カードゲーム「ぼうさいダック」



幼児に提示するカードです。

- ねらい
 - ・子どもたちが実際に体を動かし、声を出して遊びながら、安全・安心への「第一歩」を自然と身に付けさせる。



幼児がダックのポーズで頭を守っています。

- 内容
 - ・先生などの進行役が、災害のイラストが描かれたカードを提示します。
 - ・子どもたちは、カードに応じて素早く対応行動のポーズを取ります。

4

○ 幼児の声

- ・津波がきても逃げることができるようになりました。
- ・地震が起きたときは、頭を守ることをおぼえました。

○ 教職員の声（児童の変容や感想）

- ・ゲームを組み合わせると園児の理解がより深まった。
- ・カードを活用することで、園児が、災害時の行動を楽しみながら覚えることができた。

自分で守る
みんなで守る
防災教育

自分で守る
みんなで守る
防災教育

小学校

- Case 2 防災かるた
- Case 3 避難所設営体験
- Case 4 非常食調理
- Case 5 煙体験、津波実験

7

Case 2 防災かるた（1・2年生：国語、特別活動）



防災かるたをならべています。



かるた取りをしています。

- **ねらい**
 - ・地震や津波、火山、気象など、北海道の自然災害や、必要な防災知識を確認させる。
 - ・確認した知識をもとに、「なぜその行動が必要か」を考えさせる。

- **内容**
 - ・誰でも楽しめる「かるた遊び」を通じて、北海道の自然災害のリスクや防災に関する知識を学びます。

- **関係機関の協力**
 - ・市町村防災担当部局や振興局職員が司会進行、解説

8

Case 3 避難所設営体験（3・4年生：総合的な学習の時間）



段ボールベッドを組立てています。



段ボールベッドの使い心地を確かめています。

- **ねらい**
 - ・災害時に学校が避難所になることを理解させ、避難時の行動を学ばせる。
 - ・新型コロナウイルス等感染症拡大防止を踏まえた避難生活を考えさせる。

- **内容**
 - ・学校が避難所になることを想定し、体育館で段ボールベッドを組み立てます。
 - ・新型コロナウイルス等感染症拡大防止のため、2メートル間隔でベッドを配置するなど、区画整理を考えます。

- **関係機関の協力**
 - ・市町村防災担当部局や振興局職員がベッド組立を説明

9

Case 4 非常食調理（5・6年生：家庭科）



ハイゼックスに米を入れていきます。



水を入れ、米を炊く準備をしています。

- **ねらい**
 - ・調理体験を通じて、ライフラインが途絶えた状態での避難生活について考えさせる。
 - ・少量の水での調理や、食器を使わず調理できることを体験し、被災時の水の大切さについて学ばせる。

- **内容**
 - ・米と少量の水で炊飯できる炊き出し袋「ハイゼックス」を使って調理します。
 - ・道作成の「北の災害食レシピ」をもとに、災害食について学びます。

- **関係機関の協力**
 - ・市町村防災担当部局や振興局職員が調理の説明

10



煙の中を避難しています。

○ 煙体験

- ・ 発災時にあわてず行動することの重要性を学びます。
- ・ 地震等の自然災害による火災を想定し、煙の中での避難行動を体験します。



津波発生の仕組みを学んでいます。

○ 津波実験

- ・ 津波の速度や繰り返し襲ってくることを視覚的に理解し、避難行動の重要性を考えます。
- ・ 実験を通じて津波発生の仕組みを学びます。

11

成果・関係機関の助言

○ 児童の声

- ・ 災害に備えて、家でも準備できることを考えようと思いました。
- ・ 自分の命は自分で守らなければならないことがわかりました。
- ・ 津波の怖さを理解し、「津波てんでんこ」の大切さを感じました。

○ 教職員の声（児童の変容や工夫点）

- ・ 毎年、1日防災学校を実施することで、児童の防災意識が高まっている。教職員も緊急時の行動について考える機会となり、学校全体の防災意識向上につながった。
- ・ 関係機関には、児童が自分たちでできることを意識できるような指導を依頼し、連携して取り組んでいる。
- ・ コミュニティスクールの取組の一環として行うことで、地域や保護者の積極的な参加が見られた。

○ 関係機関の助言

- ・ 子どもたちが主体的に判断して避難できる取組が必要です。
- ・ 学んだことを家族と話すなどして学習を振り返り、災害時に避難できるようにすることが大切です。

自分で守る
みんなで守る
防災教育